

平成28年7月～9月期
地域産業経営動向調査
〔報告書〕

堺 市

〔 調査実施機関
堺 商 工 会 議 所 〕

調査の概要

1. 調査目的 堺市管内事業所の経営動向の実態を四半期毎（3月期・6月期・9月期・12月期）に調査し、業況判断指数D I 値等により景気動向を把握する。
2. 調査対象 堺商工会議所会員事業所800社（建設業200社・製造業200社・卸売業100社・小売業100社・サービス業200社）
3. 調査期間 平成28年9月15日（木）～平成28年9月30日（金）
4. 回収率

	調査対象数	回収数	回収率
建設業	200社	113社	56.5%
製造業	200社	118社	59.0%
卸売業	100社	56社	56.0%
小売業	100社	54社	54.0%
サービス業	200社	116社	58.0%
全産業	800社	457社	57.1%

【主要な表現について】

- 業況判断 … 調査対象企業が自らの業績に下した判断。
- D I 値 … 「好転」したとする企業割合から「悪化」したとする企業割合を差し引いた値。

【各項目別のD I 値の意味について】

- 業況判断 … D I 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
- 売上高 … D I 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
- 採算 … D I 値がプラスなら「好転」を、マイナスなら「悪化」を表す。
⇒ 今期状況 … D I 値がプラスなら「黒字基調」を、マイナスなら「赤字基調」を表す。
- 資金繰り … D I 値がプラスなら「容易」を、マイナスなら「困難」を表す。
- 雇用人員 … D I 値がプラスなら「増加」を、マイナスなら「減少」を表す。
⇒ 今期状況 … D I 値がプラスなら「不足」を、マイナスなら「過剰」を表す。

調査結果の概観

今期(7月～9月期)の前年同期比を見ると、業況判断、売上高、採算、資金繰りはともに改善となったが、雇用人員は悪化した。

来期(10月～12月期)の予測については、業況判断、雇用人員は改善、売上高は横ばいとなっている。一方で、採算はやや悪化、資金繰りについては悪化となっており、市内中小企業の動向については、引き続き注視していく必要がある。

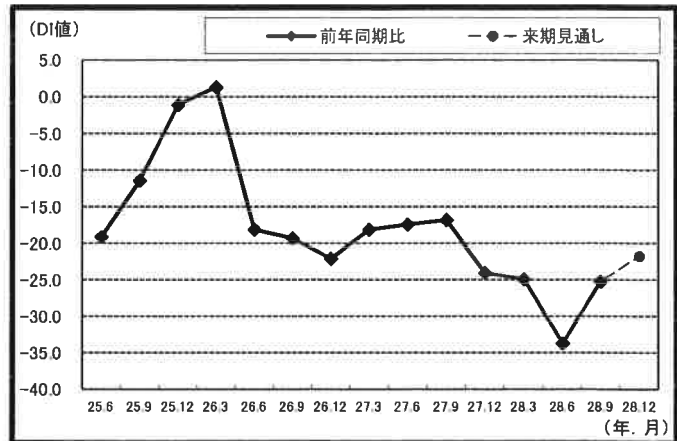
1. 業況判断の動向

・前年同期比の指標は改善。
($\Delta 33.7 \Rightarrow \Delta 25.2$)

・来期見通しの指標は改善と予測。
($\Delta 25.2 \Rightarrow \Delta 21.7$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、建設業、製造業、サービス業は改善。卸売業は4期連続で悪化。小売業は横ばい。

・前年同期比の指標は改善。



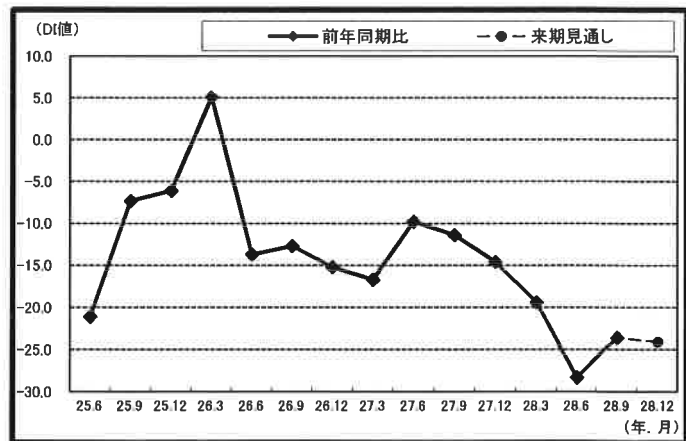
2. 売上高の動向

・前年同期比の指標は改善。
($\Delta 28.3 \Rightarrow \Delta 23.6$)

・来期見通しの指標は横ばいと予測。
($\Delta 23.6 \Rightarrow \Delta 24.1$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、建設業、製造業は改善。卸売業はやや改善。小売業は2期連続で悪化。サービス業はやや悪化し悪化傾向は2期連続。

・前年同期比の指標は改善。



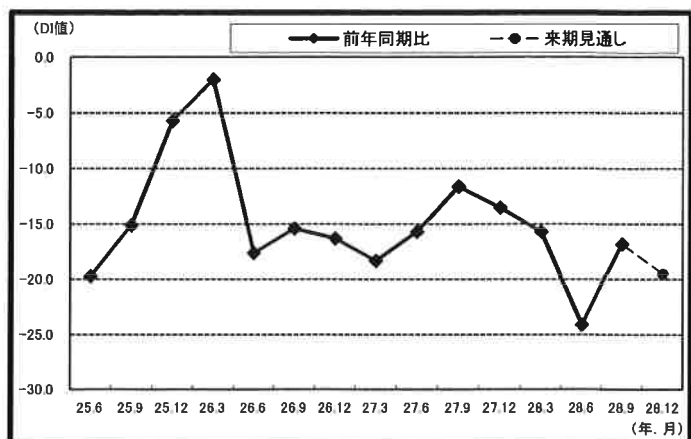
3. 採算の動向

・前年同期比の指標は改善。
($\Delta 24.1 \Rightarrow \Delta 16.8$)

・来期見通しの指標はやや悪化と予測。
($\Delta 16.8 \Rightarrow \Delta 19.5$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、建設業、製造業、卸売業、サービス業は改善。小売業はやや悪化し悪化傾向は2期連続。

・前年同期比の指標は改善。



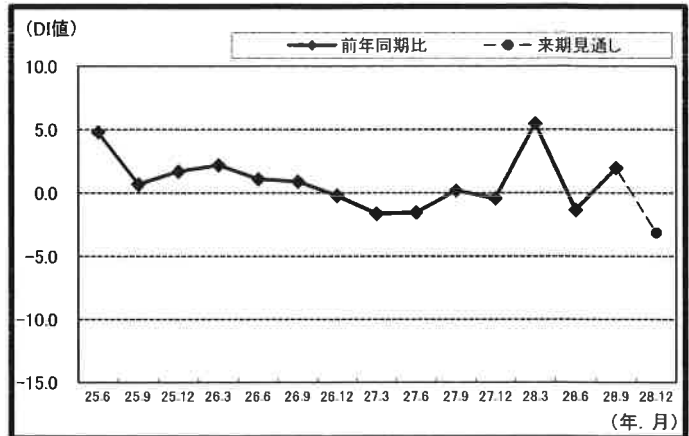
4. 資金繰りの動向

・前年同期比の指標は改善。
($\Delta 1.3 \Rightarrow 2.0$)

・来期見通しの指標は悪化と予測。
($2.0 \Rightarrow \Delta 3.1$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、建設業、サービス業は改善。製造業はやや改善。卸売業はやや悪化し悪化傾向は2期連続。小売業は悪化。

・前年同期比の指標は改善。



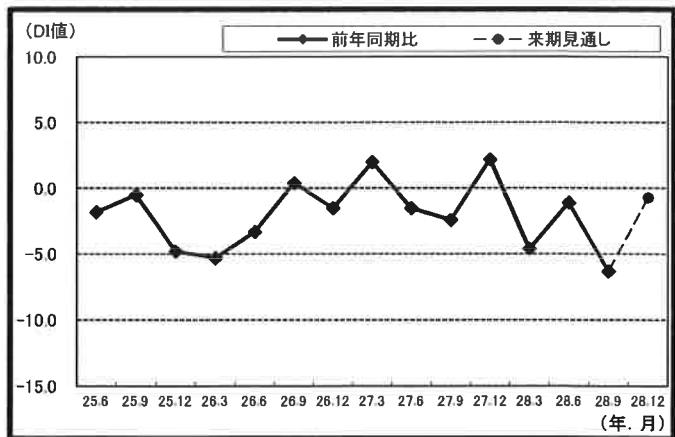
5. 雇用人員の動向

・前年同期比の指標は悪化。
($\Delta 1.1 \Rightarrow \Delta 6.3$)

・来期見通しの指標は改善と予測。
($\Delta 6.3 \Rightarrow \Delta 0.7$)

・業種別に前年同期比の指標を見ると、建設業、卸売業、サービス業は悪化。製造業は横ばい。小売業は2期連続で悪化。

・前年同期比の指標は悪化。



来期見通し

平成27年10月～12月期と比較した平成28年10月～12月期の見通しは、業況判断、雇用人員は改善、売上高は横ばい、採算はやや悪化、資金繰りは悪化と予測している。